

PAT-NO: JP359053227A  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 59053227 A  
TITLE: CAR PARASOL  
PUBN-DATE: March 27, 1984

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

YAJIMA, CHIYOU

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

YAJIMA CHIYOU

YAJIMA TSUGIE

MINEGISHI MITSUYOSHI

COUNTRY

N/A

N/A

N/A

APPL-NO: JP57164572

APPL-DATE: September 21, 1982

INT-CL (IPC): B60J007/00, B60J001/20

US-CL-CURRENT: 296/99.1, 296/135

ABSTRACT:

PURPOSE: To protect passengers from rain when getting on and off, by providing a fixed member where a tent is wound over the roof of car and a movable shaft where one end of tent is fixed to the upper end of door and developing the tent in accordance to opening of the door.

CONSTITUTION: A movable shaft 10 is fixed at the window frame 2 at the upper end of door 4 while a fixed member 20 is fixed at the corresponding end of roof 3. When opening the door 4 during stoppage of a car 1, said shaft 10 is moved to the arrow direction as the rotation of door 4 to stretch a tent 6 having one

end 12 fixed to said shaft 10. A pipe 23 of said member 20 wound with the tent  
6 is rotated against the energizing force of a springboard 27 to feed the tent  
6 sequentially, to complete development of tent 6 at the point where the door 4  
has opened completely. Consequently the passenger can be protected from rain  
when getting on/off the car 1.

COPYRIGHT: (C)1984, JPO&Japio

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭59—53227

⑪ Int. Cl.<sup>3</sup>  
B 60 J 7/00  
1/20

識別記号

庁内整理番号  
6927—3D  
6519—3D

⑬ 公開 昭和59年(1984)3月27日

発明の数 1  
審査請求 有

(全 4 頁)

⑭ 車のこうもり

⑯ 特 願 昭57—164572  
⑰ 出 願 昭57(1982)9月21日  
⑱ 発 明 者 矢島晃  
藤岡市上大塚867  
⑲ 出 願 人 矢島晃

藤岡市上大塚867  
⑲ 出 願 人 矢島次枝  
大塚市上大塚867  
⑲ 出 願 人 峰岸三可  
藤岡市藤岡338番地  
⑲ 代 理 人 弁理士 田中二郎

明 細 書

1 発明の名称

車のこうもり

2 特許請求の範囲

弾性体を介して、略円錐形状のパイプを外周に構成したシャフトと補強軸を一对の台で挟持した固定体を構成し、かつ車のドアの上側に取付ける移動軸を構成し、この移動軸と上記パイプの間にテントを張設してなる車のこうもり。

3 発明の詳細な説明

本発明は車のドアを開いたときに、雨よけの役目をする車のこうもりに関するものである。

従来は、雨中に車のドアを開けて外に出るときは、傘をさすときにドアが邪魔になりさしにくい。ため傘をさすまでの間に雨にぬれていた。車に入るときも同様にぬれることが多かった。

本発明はこのような従来の欠点を除去するため、発明をされたものであり、構成簡易にして、車体に着脱自在で、ドアの開閉に伴つて自動的に伸縮するテントを有する車のこうもりを提供する

ことを目的とする。

本発明の実施例を図面に基いて説明すると、第1図は使用状態の斜視図、第2図は固定体の正面図、第3図はシャフトと板パネの斜視図、第4図は台とシャフトの取付状態を示す斜視図、第5図は移動軸の正面図である。

本発明の構成を要約的に述べると、弾性体を介して、略円錐形状のパイプを外周に構成したシャフトと補強軸を一对の台で挟持した固定体を構成し、かつ車のドアの上側に取付けられドアの開閉に従つて移動する移動軸を構成し、この移動軸と上記パイプの間にテントを張設してなるものである。

この構成を詳しく述べると、固定体20の台21は第4図等によつて示されるように、車1の屋根3に取付けるため底面21aは適当に湾曲して、全体をマグネットによつて構成する。これは固定体20を車1に対して着脱自在とするためであるからマグネットに限らず底面21aに接着用のテープを貼付し、車1に対して着脱自在としてもよい。

従つてネジ止めなどに比し車1の塗装等を傷つけない効果を奏する。

第4図に示すように、この台21には側面にビス25を取付ける。このビス25は後述のようにシャフト26に設けた溝24に嵌合せしめることによりシャフト26を台21に確実に固定するためのものである。

シャフト26は第3図に示すように適当な長さの金属管よりなり両端にはビス25で固定するための溝24, 24を設けてなる。また、このシャフト26には板パネ27を巻装して、この板パネ27は一端をシャフト26の先端に固定し、かつ他端をパイプ23の端部に設けた切込23aに固定してなる。

この板パネ27は後述のようにパイプ26の巻戻しを行うための弾性体として機能するから、本実施例のように板パネ27に限らず、これと同様な効果を奏するもの、例えばスプリングやゴム等を用いてもよい。

またパイプ26は鋼あるいはアルミなどにつく

り図示のようにテーパを有して全体として略円錐形状をなし、側面の長手方向にテント6の一端を固定してある。これは、ドア4が開くときにはドア4は車1に係合してある鎌首を中心に回転をするから、ドア4の上部両端では車体に対して開く距離が異ってくる。従つてドア4の開閉に従つて伸縮するテント6はドアが開いている状態では両側は同じ距離だけ屈かず扇状となるため(第1図参照)、このテント6の伸縮に合わせてパイプ23をテーパ状に構成しておきテント6の巻取を確実有効に行わしめるものである。

なおシャフト26の両端の台21を接する部分にはプラスチック製のワッシャ28を設け、シャフト26に巻装した板パネ27が台21に接触するのを防止し、台21の磁力をうけて磁化し、弾性体としての機能を損ねないようにした。

補強用のシャフト22は、台21, 21の間隔を常に一定に保つためであり、このためパイプ23やシャフト26を台21に対して着脱可能として交換できるのである。

-3-

-4-

移動軸10はマグネットで構成されていて側面の長手方向に亘つてテント6の一端を固定してある。この移動軸10は車1のドア4の窓枠2の上端に取付けるか、あるいは窓枠2のない車では直接窓ガラス5の上端に取付ける。窓ガラス5に直接取付ける場合は裏に接着テープを貼つた止め金12, 12によつて移動軸10を窓ガラス5に固定する。

テント6は布製又はビニール製等の防水材質であり、適度の幅、長さをもっており、一端をパイプ23の側面に固定してなる。ドア4を閉じている状態ではテント6はパイプ23に巻装して収納されているが、ドア4を開くと移動軸10に引張られて伸展するのである。

このように構成した本発明の実施例の作動を説明すると、まず雨や雪などが降つてきたら車1のドア4の上端の窓枠2に移動軸10を取付け、この移動軸10に対応した屋根3の一端に固定体20を取付けるのである。

車1の走行中は当然ながらテント6は閉じたま

まであるが、車1を停止しドア4を開くと、ドア4の上端に取付けた移動軸10がドア4の回転に伴い第1図中矢印方向に移動するから、移動軸10に一端を固定されたテント6は引張られることになる。一方屋根3に固定した固定体20のパイプ23は上述のようにテント6を巻装してあるから、テント6の伸展に伴つて板パネ27の弾性力に抗して回転をし、次々とテント6が送り出されることになる。そしてドア4が開ききつたところ、つまりテント6が伸展し終つたところでパイプ23の回転も止まる。(第1図参照)

この状態で人が車1に出入りをするのであるから人はこのテント6により雨や雪をしのげるのである。すなわち、ドア4を開くと自動的に雨よけたるテント6が伸展されるのである。

ドア4を閉めると、テント6の伸展状態がゆるみ、従つてパイプ23は板パネ27の弾性力によつて巻戻されるように回転をし自然とテント6を元の状態に巻取り収納するのである。

また、雨がやんだら固定体20と移動軸10を

車体より取外しトランクなどに収納する。この場合も、固定体20等はマグネットにより取付けられているため着脱が容易なのである。

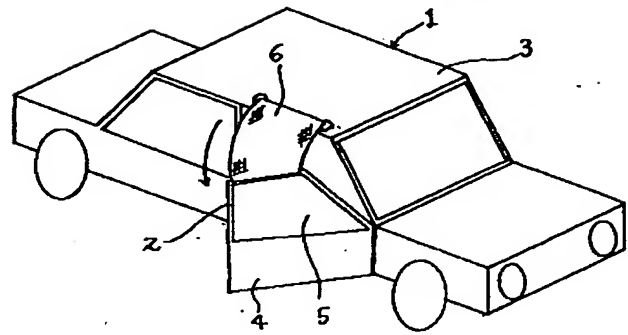
上述のように本発明によれば構成簡易にして、車体を傷つけることなく車体に着脱自在かつドアの開閉に伴い自動的に雨上げを構成する等の効果を奏するのである。

#### 4 図面の簡単な説明

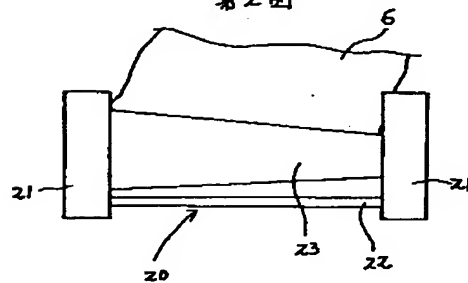
図面は本発明の実施例を示すものであり第1図は使用状態の斜視図、第2図は固定体の正面図、第3図はシャフトと板バネの斜視図、第4図は台とシャフトの取付状態を示す斜視図、第5図は移動軸の正面図である。

1…車、2…窓枠、3…屋根、4…ドア、5…ガラス、6…テント、10…移動軸、12…止め金、20…固定体、21…台、22…補強軸、23…パイプ、23a…切込、24…溝、25…ビス、26…シャフト、27…板バネ、28…ワッシャ。

第1図

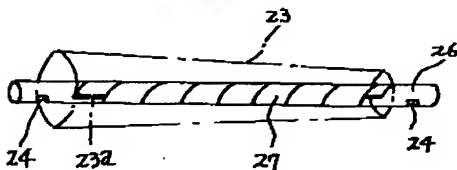


第2図

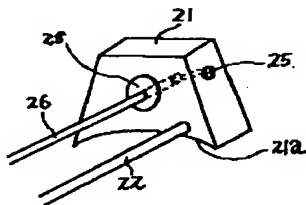


-7-

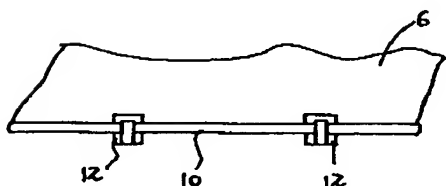
第3図



第4図



第5図



#### 手続補正書 (自発)

昭和57年11月20日

特許庁長官 若杉和夫殿

#### 1 事件の表示

昭和57年特許第164572号

#### 2 発明の名称 ドアのとらり

#### 3 補正をする者

事件との関係 出願人

住所 群馬県藤岡市上大塚867

氏名(名称) 矢島 龍 外2名

#### 4 代理人

住所 東京都千代田区内神田1丁目18番11号

東京ロイヤルパレス11階1117号電話 03(294)3088(代)  
氏名 (8350) 弁理士 田中 一 郎

#### 5 補正命令の日付

#### 6 補正により増加する発明の数

#### 7 補正の対象

明細書の「発明の名称」の欄、「特許請求の範囲」の欄及び「発明の詳細な説明」の欄

#### 8 補正の内容

(1) 明細書の発明の名称を「車のとうもり」より  
「ドアのとうもり」と補正する。

(2) 特許請求の範囲を次のように補正する。

2. 特許請求の範囲

弾性体を介して、略円錐形状のパイプを外周  
に構成したシャフトと補強軸を一对の台で挟持  
した固定体を構成し、かつ車のドアの上側に取  
付ける移動軸を構成し、この移動軸と上記パイ  
プの間にテントを張設してなるドアのとうもり。

(3) 明細書第1頁第12行目及び第20行目の  
「車」を「ドア」と補正する。

以 上